



伊賀市立壬生野小学校  
2023年5月29日  
発行責任者 藪中 俊典

## 運動会が近づいてきました。

前線や台風の影響で、今週は雨の日が多いようですが、考えようによっては、暑さの中での練習で疲れ果てて運動会当日を迎えるのではなく、「みんな元気に運動会当日を迎えられるからラッキー」といったプラス思考で考えています。

当日は、朝7時から、地区委員さんを中心に、観覧用のテントを張っていただきます。すべてのテントが設営し終わるまでは、座席の確保はご遠慮ください。また、学年に応じて席を譲り合うなど、みなさんが気持ちよく、参観できるようご理解ご協力よろしくお願いします。

また、子どもたちも、途中で休憩の時間をとりますが、保護者のみなさんも、十分な水分をとっていただきながら、参観いただきますようよろしくお願いします。当日は、「十分なお茶」と「弁当」を持たせていただきますようよろしくお願いします。

なお、下校は通学団ではなく、「お迎え訓練」を実施し、保護者の方の迎えとなりますので、以下の内容をご確認ください。

- 1 実施日 令和5年6月3日(土)  
運動会が延期した場合は、運動会にあわせて延期します。
- 2 時間帯 14:35~15:10
- 3 実施内容  
・児童は各教室で待機し、保護者の方に子どもたちを各教室へ迎えにきていただき、児童引渡カードで確認し、安全に引き渡す。
- 4 その他  
・児童の迎えは、どの昇降口から入っていただいてもかまいません。スリッパは各自ご準備ください。  
・駐車場は、今回の訓練では、壬生野小学校の駐車場、壬生野保育園の駐車場、運動場も可とします。運動場への乗り入れは、西門から入っていただき、正面の南門から出て行く一方通行とします。

## 第2回 まなびん から 3年生

わり算の勉強は、3年生から始まりますが、わり算では、答えが求められること以上に大切なのは、問題の場面をかけ算の式で表せることです。

- 「12個のあめを3人に同じ数ずつ分けます。一人分は何個ですか。」 →  $\square \times 3 = 12$   
「12個のあめを3個ずつ分けます。何人に分けられますか。」 →  $3 \times \square = 12$

どちらもわり算では、「 $12 \div 3 = 4$ 」ですが、求めている数が、「一あたり量」の数なのか、「いくつ分」の数なのかを理解できていることが、割合の学習の理解につながる大切なポイントです。また、口を使った式で表すことは、子どもたちは大変苦手としています。口を使った式で表すことに慣れておかななくては、6年生で「x」や「y」といった文字を使った式のときのつまずきとなります。

かけ算九九は、2年生の学習内容ですが、2年生のかけ算九九の勉強の時から、 $\square \times 5 = 20$ といった口を用いた計算もどんどんやらせることが大切です。

## 4年生

これまでも、グラフの問題では、必ず一目盛りがいくつ分を表しているか、あるいは表すかに注目することが大切であると言ってきましたが、今回は、まことさんが言っていることが正しいかどうかをことばで説明する問題を出しました。ほとんどの子が一目盛りの大きさを根拠にした説明を書いていて、これまでの学習の成果を感じました。

## 5年生

学力調査等には、毎回、同音異義語が出題をされます。今回は、「いがい」「しょうか」を出題しましたが、「以外」「消火」と書いていた子どもが多くいました。「いがいな関係」「食べているものがどのようにしょうかされているか。」といった文脈から、どの漢字がふさわしいか判断しなくてははいけません。他にも、「かんしん」「きかい」などがよく主題をされます。

また、5年生、6年生とも、主語と述語の理解には、課題が見られました。しっかり復習をしましょう。

何が どうする。(花が 咲く。薬が 効く。)  
何が なんだ。(花が きれいだ。海が きれいだ。)  
何が 何だ。(彼女は 小学生だ。これは、花だ。)

## 6年生

半数以上の子どもが、友達達の「たち」を間違えて覚えていました。横棒が3本のところを2本しか書いていない子どもが大変多かったです。大人でもそうですが、一度間違えて覚えてしまったものを、正しく覚え直すということは難しいものです。だからこそ、初めて練習させるときが重要です。正しく覚えるまで何回も何回もなぞり書きをさせることが重要です。

算数では、「言葉と式を使って説明しましょう。」という問題を出題しましたが、「 $1.6 + 1.4 + 2 = 5$ です。」というように「言葉」を書いている子どもがいましたが、ここでの「言葉」とは、「どうしてたすのか。」「求めた5は何を表す数なのか。」といったことを「言葉」で説明しなくてははいけません。「 $\times 23$ 」も「23人分を並べるから」といった「言葉」での説明が必要です。